

<式辞>

雪が残るあずまの山々を背に、校木の櫨が芽吹きはじめる中、ここにこのような形で第74回卒業証書授与式を挙げていきますこと、ご理解とご協力いただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。そして、卒業生28名の皆さん、卒業おめでとう。卒業生の皆さんは、このコロナ禍においても歴史ある秋保中学校の伝統を継承しつつ新しい風を吹き込みながら様々な活動をリードしてきました。

皆さんは5歳で東日本大震災を経験し、校外学習、野外活動での震災学習を通して、力を合わせて復興に取り組んでいる人達の姿を目の当たりにしました。台風19号の被害からの復興を手助けしたいと「きせきのたびぷりん」の商品開発に取り組み、その縁で、修学旅行を受け入れていただき、コロナ禍でも台風被害を乗り越えようとしている丸森の人達と交流しました。亙理では、震災を乗り越え、マリンスポーツやサイクリングを通じた観光開発の実際を体験し、亙理温泉「鳥の海」では全館貸し切りのおもてなしを受けました。震災から10年、これらの活動を通じて様々なことを感じ、学んできたことを風化させることなく今後の人生に生かしてください。

秋保中学校の教育目標は「笑顔で元気に社会に出て活躍できる生徒の育成」です。10年後社会に出て、笑顔で元気に活躍している皆さんの姿を想像しながらいろいろな教育活動に取り組んできました。特に今年度は、突然の臨時休校から始まり、手探りの中で、意見を出し合い「何ができるか」を考え、メールを使った課題の提出、動画を使った授業や体操指導、「すらら」を使ったオンライン学習を取り入れました。学校が再開され、感染対策のため様々な制約がある中、皆さんは「どうすればできるか」を考えいろいろな工夫をしてきました。体育祭では密にならない種目を考え、短時間ではありましたが、全校生徒が一丸となって楽しむことができました。その他授業の様子や文化発表会などの行事は動画配信で保護者の皆さんにお伝えしました。キャリアインターンシップ、起業体験活動、地域伝統文化体験については、地域の方々に理解と協力をいただき、感染対策を工夫しながら体験をすることができました。特に起業体験で取り組んだ「秋保の交通を考える全校授業」では、今秋保の抱えている交通インフラについて講師の話聞きながら秋保の将来像を考えました。

人生を山登りに例えるなら、学校では山を登るための道具である知識、その使い方である知恵、そして山登りそのものの素晴らしさである人生の目標を教えてきました。特に秋保中学校では秋保で活躍する多くの人達と直接接する機会を設け、それぞれの方々の生き方とその魅力を伝えてもらいました。人生の目標である山の素晴らしさを伝えてきたつもりです。これから皆さんがどんな山を目指し、その山に登るためにどんな道具を準備し、それを使いこなしていくか、自分で考え、自分で決めていかなければなりません。

これから皆さんは秋保中学校を巣立ち、高校そして社会へと旅立っていきます。今まで以上にいろいろなことを経験するはずです。その経験には、楽しいことも辛いこともあるでしょう。たとえ思い通りにならなくとも次に生かすことができれば決してそれは無駄にはなりません。秋保で培ってきた感性と技を信じ、挑戦する気持ちを大切に、困難を乗り越えていってほしいと思います。

保護者の皆様、かけがいのない大切なお子様をお預かりし、私たち教職員は、時に厳しく諭しながら、時に悩みに寄り添いながら、教育活動に取り組んで参りました。これまで本校の特色ある様々な教育活動に対し、ご理解とお力添えを賜りましたこと、教職員を代表し、心から御礼申し上げます。

また、本日もご臨席をいただけなかった、ご来賓の皆様、そして地域の皆様のご厚意に支えられ、卒業生は本日、秋保中学校を巣立って行きます。これからは、生まれ育ったこの秋保のため、「ふるさと秋保」を支える一人の若者として、国内、そして世界の人々に「秋保の魅力、秋保の良さ」を発信し、秋保の発展に貢献する人材として活躍していただけることと思います。

最後に、卒業生の皆さん一人一人が、校訓に示された「敬愛・体力・向学心」の精神を胸に、秋保中学校出身であることを誇りに、ユネスコの掲げるSDGsの理念であるtakeよりgiveの気持ちを優先し、そして、I'M AKIUとして、持続可能な魅力あふれる未来を見つめ、笑顔で、元気に、自らの人生を切り開いていくことを祈念しまして、式辞といたします。

令和3年3月6日

仙台市立秋保中学校
校長 千葉 慎